

研 修 開 催 報 告 書

北部構内事務部教務・図書課共通図書掛

開催年月日時	平成 28 年度 6 月 23 日（木） 16:30～17:30
研修名	オープンアクセス研修会 「研究成果を世界に発信！いつでも誰でもどこでも」
目的	オープンアクセスとは何かという話から、本学リポジトリへの具体的な登録手順など論文をオープンアクセスにする方法を説明する。
会場	農学部総合館講義室 W-106 室
開催形態	主催：北部構内事務部教務・図書課共通図書掛、農学研究科 FD
講師	野間口真裕（共通図書掛員） 由本慶子（教務・図書課課長補佐/共通図書掛長）
内容	講義形式 1) オープンアクセスとは、リポジトリ登録システムについて 2) オープンアクセスのための論文投稿料（APC）について 3) 質疑応答
募集定員	100 名（申込不要）
参加者数	25 名
担当者感想	<ul style="list-style-type: none"> - アンケートをみますと理解度・満足度ともに高く、テーマについてはご理解・ご満足いただけたようです。 - 著作権についてさらに詳しい説明の要望が多く見受けられました。 - 著作権や出版社・著者の許諾については整理しておく必要があります。 - 学位論文について多数の質問がありました。参加者にはご理解いただきましたが、参加していない学生にも広報が必要と思われます。 - オープンアクセス、京都大学学術情報リポジトリ KURENAI やリポジトリ登録システムについて理解していただけたようでした。 - 配布資料残部は北部図書会議で配布する予定です。

2016年6月23日開催 オープンアクセス研修会広報ポスター



The poster features a central graphic of a globe with the text "研究成果を世界に発信!" (Disseminate research results to the world!) and "いつでも誰でもどこでも" (Whenever, wherever, by anyone). The main title "オープンアクセス研修会" (Open Access Seminar) is prominently displayed. A yellow box on the left contains detailed text about the seminar's purpose and agenda. The bottom section provides event details: date (June 23, 2016), time (16:30-17:00), and location (Northern Campus Agriculture Faculty Building 1F, Room W-106). A map shows the building's location near the intersection of Imazu and Kawanishi streets. A cartoon character holding a book and a lightbulb symbolizes the seminar's goal of disseminating research.

研究成果を世界に発信！
いつでも誰でもどこでも
**オープン
アクセス
研修会**

平成27年度本学では、オープンアクセス方針が制定されました。オープンアクセスとは、学術論文をインターネット上で世界中の誰でも無料でアクセスできるようにすることです。オープンアクセスにすることで、情報アクセスの平等が進められるだけでなく、研究成果の情報発信力が高まります。

今回は、オープンアクセスとは何かというお話から、本学リポジトリへの具体的な登録手順など図書館員より、概要の説明を行います。

オープンアクセスに関するさまざまな疑問の解消をお手伝い致します！

日時：平成28年 **6月23日**(木) **申込不要**
16:30～17:00 (受付開始 16:15)

会場：
北部キャンパス農学部総合館1階
講義室W-106室(定員100名)

対象：
教員、学生その他
関心のある学内構成員

理学研究科4号館
理学研究科3号館
理学研究科6号館
理学研究科2号館
農学部総合館
北部生協
理学研究科1号館
今出川通り

主催：北部構内事務部 教務・図書課 共通図書掛
問合せ先：共通図書掛 TEL:075-753-6026 E-mail:a60lib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

共通図書掛 福田掛員作成

研修開催報告書

北部構内事務部教務・図書課共通図書掛

2016年6月23日開催 オープンアクセス研修会アンケート

本日は当研修会にご参加いただき、ありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、ぜひアンケートにご協力下さい。

*アンケートでお寄せいただいたご意見等は、図書系サイトに掲載したり、今後の研修内容に利用させて頂くことがありますので予めご了承ください。なお、その場合でも個人が特定できる情報を含めることはありません。

1. あなた自身について				
■ ご所属				
1. 【農学研究科・農学部】	2. 【理学研究科・理学部】	3. 【数理解析研究所】		
4. 【基礎物理学研究所】	5. 【フィールド研】	6. その他 ()		
■ ご身分				
1. 教員	2. 【学部生】()年	3. 【修士】()年	4. 【博士】()年	
5. 研究員	6. 職員	7. その他 ()		
2. 本日の研修会について				
■ 本日の研修会を何で知りましたか?(複数回答可)				
1. ポスター	2. 専攻事務室等からのメール	3. 教職員からの案内	4. 図書館・図書室のHP	
5. 職員ポータルサイト	6. その他 ()			
■ 本日の研修会の理解度について、5段階で評価してください。				
理解できなかった	1 2 3 4 5			よく理解できた
■ 本日の講習会の満足度について、5段階で評価してください。				
不満足	1 2 3 4 5			満足
■ 本日の研修会の内容について ①よく理解できた点/疑問が解消された点、②わかりにくかった点があればお書きください。				
① よく理解できた点・疑問が解消された点				
[]				
② わかりにくかった点				
[]				
■ オープンアクセスに関する事で、質問や疑問に思っておられることがございましたらご記入ください。もし直接のご回答を希望される場合には、ご連絡先をご記入ください。				
① ご質問内容				
[]				
② 上記質問内容について、直接回答を希望される場合の連絡先情報(メールアドレス等)				
[]				
■ その他、本日の研修会についてご意見がございましたら、ご記入ください。				
[]				

ご協力ありがとうございました

研修開催報告書

北部構内事務部教務・図書課共通図書掛

2016年6月23日開催 オープンアクセス研修会アンケート結果

0. 参加状況

参加人数	25
アンケート回答数	22

回答率: 88%

1. あなた自身について

参加者の所属について

所属	人数
農学研究科・農学部	12
理学研究科・理学部	4
数理解析研究所	0
基礎物理学研究所	1
フィールド研	1
その他*	4

*: 医学1名、附図2名

参加者の身分について

所属	人数
教員	8
学部生	0
修士	0
博士*	4
研究員	0
職員	10
その他	0

*: 2年1名、3年3名

研修開催報告書

北部構内事務部教務・図書課共通図書掛

2. 今回の研修について

2-1 研修を何で知ったかについて

経路	人数
1.ポスター	6
2.専攻事務室等からのメール	9
3.教職員からの案内	3
4.図書館・図書室のHP	3
5.職員ポータルサイト	0
6.その他*	2

*:職員から紹介

2-2 研修の理解度と満足度評価について

評価	理解度人数	満足度人数
1	0	0
2	1	1
3	2	2
4	10	12
5	8	6
平均値(無回答含む)	4.19 (4)	4.09 (3.9)

2-3【自由記述】

①よく理解できた点・疑問が解消された点	
部局名	記述内容
農	学位論文の登録に関して
農	著作権の問題をどうするのかと思っていたが、著者最終稿ならリポジトリ掲載を認める出版者が多いときいて、納得できた。
農	KURENAI の存在と使い方
農	”オープンアクセス”には理解があったが、京都のリポジトリ紅についてはその正体は今日、改めて理解できました。大学にいと論文えつらん料とかは、あまり(ありがたみを)認識していない人が多いと思います。←アピールしてもいいかも
農	KURENAI の登録方法について
農	ゴールド OA、グリーン OA の違い。
フィ研	登録システムについて説明していただいたので理解できました。
理	リポジトリ登録方法
医	オープンアクセスに関するさまざまな研究者からの疑問点

研修開催報告書

北部構内事務部教務・図書課共通図書掛

附図	オープンアクセスにゴールドとグリーンが有るという話。
②わかりにくかった点	
農	著作権の点で疑問が非常に多かった。
農	他大学と他 OA とのちがい
農	オープンアクセスを行える対象が先生(教員)ということだが、それは論文著者の筆頭著者か、corresponding author なのか、誰だろうか、と分かりませんでした。
農	ゴールド OA とグリーン OA の使い分けをどのように行うのかが分かりにくかったと思います。
理	著作権周りのこと(Q and A でかなり分かりました)
基礎研	具体的なシステムの説明部分や著作権に関する[部分]が短かったような印象を受けました。先生側がすべきことと図書館側がすることがはっきり区別できるような資料があればいいかと思いました。
附図	シリアルズクライシスからオープンアクセスへの流れがよくわからなかった。オープンアクセス登場の背景がくわしく知りたいと思った。
③その他のご意見	
農	まだ学生ですが将来的に
農	他の研修などの多くが理学部で開催されていてアクセスしにくいと思っていましたが、この研修会は農学部総合館で開催されていたので参加しやすかったです。
附図	財務会計への入力方法についてふれていただきありがとうございます

2-4【アンケートに記載された質問(直接回答を希望された方にはすでに回答済)】

農	著者版であれば出版者が公開を許可しているか否かはどうしたらわかりますか？著者が調べるのですか？
	<p>→多くの出版社ではウェブサイト等で許諾範囲を公表しております。</p> <p>また、Publisher copyright policies & self-archiving 確認サイト SHERPA/RoMEO http://www.sherpa.ac.uk/romeo/index.php や</p> <p>学会著作権ポリシーデータベース SCPJ http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/index/ で許可しているか否かご確認いただくことができます。</p> <p>オープンアクセス方針承認後の先生の著作の著作権につきましては図書館が順次、許可条件を確認いたしますので、まずは先生がお調べいただく必要はございません。</p> <p>確認完了までお待ちいただくか、もしお急ぎの場合はリポジトリ登録システムなどで附属図書館学術支援掛(repository@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)までお問い合わせください。</p> <p>また、同様のご質問につきまして京都大学オープンアクセス方針 FAQ No.25 にも掲載</p>

研修開催報告書

北部構内事務部教務・図書課共通図書掛

	しております。 http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content0/1370442
農	自分の執筆した学術雑誌への投稿論文をオープンアクセスにできるかどうかについて知りたいと思います。
	→上記参照
農	research gate という研究者 SNS にて、投稿元の雑誌が許可すれば論文のファイルをアップロードし、いわゆるオープンアクセス化することもできるのですが、「紅」でのオープンアクセスでの利点は何でしょう？
	→KURENAIをはじめとする機関リポジトリは、研究者の京都大学在籍期間中の研究成果を恒久的に保存して無料公開するためのプラットフォームです。所属機関の異動があった場合でも、登録したデータを削除することはありません。なお、KURENAI では、恒久的な URL (ハンドル名や DOI) を提供していますので、別のウェブサイト等から全文データへのリンクを張る際に、リンク切れになる心配がありません。
農	出版者の許諾を得るところは、著者の責任になるのかどうか？→「質疑」で解決しました。
	→解決済みとのことでしたので省略

2-5【研修終了後質疑応答の場での質問及びその回答】

Q	リポジトリ登録で出版社からの許可が必要とのことですが、実際問題としてどのくらいの出版社の会社が許可をしてくれているのでしょうか？
A	多くの出版社は著者最終稿につきましては可と聞いております。出版社版を可としているところはあまり多くはないので、逐次図書館側で確認して、それをリポジトリ登録システムに登録していきますので、先生方が見たときに図書館調査中というように出てくる場合もありますし、著者最終稿でお願いしますという場合もありますし、出版社版で出てくることもあります。出版社版が可能であれば、出版社版の方がきれいで、先生方もよろしいかと思っておりますので、できれば出版社版を登録していきたいとは思っております。
Q	研究者の側から直接出版社に、何かこう、対応はしなくてもよいということでしょうか？
A	はい。基本的には著者最終稿をご登録ください。出版社の許諾条件を確認いたします。
Q	一般論として教えていただきたいのですが、著者の最終稿については出版社には帰属しないのでしょうか？たしか論文を投稿するときに委譲すると書かれておりますが、著者最終稿の場合はまだ僕らにありますよということですか。

研修開催報告書

北部構内事務部教務・図書課共通図書掛

A	そうではなく、出版社に帰属すると先生方がチェックして委譲されている場合は出版社に帰属となります。出版社側のポリシーで、リポジトリに登録してよいと利用許諾が認められている状態です。
Q	共著者許諾というのをとりましょうというのがあるのですが、著作権者というのが出版社の場合、両方とるべきでしょうか。
A	リポジトリの公開にあたっての許諾について、共著者全員に許諾をおとりください。こちらでは京都大学の先生方の連絡先を確認することはできますが、他大学等の研究者の連絡先を確認することはできません。出版社の許諾につきましてはリポジトリ登録システムで申請いただいてもすぐ公開されているわけではなく、もう一度図書館側のほうで雑誌のサイトやいろいろなものを調べて調査いたします。
Q	学位論文の登録についてリポジトリ登録システムにあがってくるのか。
A	リポジトリ登録システムは基本的に SPS-ID をもっている常勤の教員のみですので学位論文の登録は別途部局教務で手続きいただくこととなります。
Q	学位論文は英語と日本語どちらがよいかコメントを。
A	学位論文の条件については答えられませんがオープンアクセスによって非英語圏でも伝わっていく可能性があります。日本語であっても世界に公開されます。